

## 天の祝宴

聖書は天の御国が完成することを祝宴とか婚宴という言葉を使って現しています。そこではいつまでも神様への賛美がささげられます。私たちの罪は完全に消し去られて、もう私たちのうちには罪がありません。痛みも悲しみも病気も死もない。なによりも嬉しいことは私たちが待ちに待った主にお会いできるということです。いつイエス様が来られて、私たちを御国に導かれるかは分かりませんがこの素晴らしい日は必ず来るとイエス様は約束されました。

## やがて天にて

御国でまた一緒に食卓を囲もうというイエス様の約束。この言葉は後に、イエス様を裏切った弟子たちにとってどれだけの励ましとなったのでしょうか。このことば以外にもたくさんのことばをもってイエス様は弟子たちを励まされました。(ヨハネ 13 章-16 章) 十字架の死が間近に迫るそんな緊迫した状況の中で行われたものですが、その内容はイエス様の弟子たちに対する深い愛と励ましが込められていました。そしてこの聖餐式はこれから苦難の先にある救いの完成に目を向けさせる希望の聖餐式でもありました。聖餐は天の御国で行われる祝宴をも表しています。聖餐式の中でパンとぶどう酒を囲むのと同じく私たちが天の祝宴に招かれていること、祝宴に参加することができることを目に見えるかたちで保証しています。この地上で私たちが聖餐にあずかる時、天の祝宴に比べると人数も少ないですし御国完成の時の祝宴とは違って未完成のものですがこの聖餐式に天の祝宴と同じくイエス様がいてくださいます。イエス様を信じる神の家族とともに聖餐にあずかることによって、天の祝宴のリアリティを私たちは味わうことができます。この地上にいる限り苦しみは絶えません。中には明らかにされない苦しみ、解決することのない痛みもあります。でも私たちの歩みは苦難が終着点でなく私たち信仰者のゴールは天の御国です。すべての苦しみ、罪から解放されるその日が来る。神ご自身が私たちの涙をぬぐい去り、これまでの悲しみをすべて喜びに変えてくださるその日が来る。この御国の約束、その希望があるからこそ、私たちはいかなる困難の中でも希望を持って歩むことができます。

## 天に思いを馳せながら

イエス様は私たちに苦難の中にある希望を指し示してくださいました。そして聖餐式を通して私たちを慰め、励まし、希望を与え、強めてくださいました。聖餐は御国の前味です。私たちはこのことを覚えて天の御国に思いを馳せ、御国への希望をこれまで以上に確かにしてともに御国に向かって歩んでいきたいと願います。やがて天の御国で主にまみえることに期待し、天で喜びの祝宴を待ち望んで、この後の聖餐に臨んでいきましょう。